

## 〔講演要旨〕千葉県睦沢町における関東大震災の影響

東京大学地震研究所\* 村岸純・佐竹健治

The 1923 Kanto Earthquake Disaster in Mutsuzawa, Chiba

Jun Muragishi and Kenji Satake

Earthquake Research Institute, the University of Tokyo, 1-1-1, Yayoi, Bunkyo, Tokyo, 113-0032, Japan

### §1. はじめに

1923(大正十二)年9月1日に大正関東地震が発生し、東京や横浜をはじめ南関東を中心に甚大な被害があった。被害の全体像に関して武村(2003)、千葉県内の震度は武村ほか(2000)など関東大震災に関する研究は多くある。

そのような中で千葉県睦沢町立歴史民俗資料館に所蔵されている関東大震災関係の資料を調査する機会を得た。その資料から睦沢町における関東大震災時の様子を紹介する。

### §2. 睦沢町の被災状況

地質調査所(1925)によると睦沢町(当時は土睦村)では「死傷者ナシ、戸数九一二、住家全潰一戸、半潰二戸、非住家全潰二棟、半潰二棟」というように死傷者が出るような大きな被害はなかった。

### §3. 資料からみる睦沢町の関東大震災

#### ① 『大正十二年度 長生郡土睦尋常高等小学校日誌』

地震が発生した9月1日の記事には「正午大地震アリ被害甚大」とある。これ以外に具体的な被害状況が記されていないため町全体の被害状況はわからない。続いて9月3日には「震災ノ為臨時休業戸外教授」とあり校舎外で授業が行われており、この状態が9月8日まで続いていた。

9月15日には「罹災児童三名入学アリタリ男一女二」というように、他地域の被災者を受け入れていたことがわかる。具体的な地域名は記載されていないが、後述の資料(②)などによると東京や横浜から被災者を受け入れていることから、これらの地域からの受け入れであると推測される。

#### ② 『関東大震災避難者人名報告』

1923年9月18日に書かれた報告で9月14日までの避難者の前所在地、現所在地、職業、氏名が記載されている。これによると東京浅草区・本所区・深川区より睦沢町に避難してきた15名を受け入れていたことがわかる。

#### ③ 『関東大震災惨死者大法要執行の御案内』

1923年9月に書かれた法要の案内である。関東大震災では東京や横浜では甚大な被害があったが、それよりも離れた千葉県中部の地で法要が行われていた。10月1日は一宮町観明寺、10月2日は東浪見村遍照寺、10月4日は八積村金藏寺、10月5日は土睦村歎喜寺でそれぞれ午後1時から法要が行われていた。

#### ④ 『関東大震災義捐金土睦村内各地区募集標準額調』

義捐金の募集に際して、村のさらに下の区画である地区ごとに、直接国税額の「一円二付四銭一厘ノ割合」で募集をしていたことが明らかになった。別の資料では義捐金を納めた人の名前が書かれているものもある。

### §4. おわりに

村に残された資料をみることで関東大震災の被災者支援の様子が明らかになった。甚大な被害を受けた東京や横浜の被害復元以外にも大きな被害を受けていない町村での資料をみていくことで、関東大震災の全体像が明らかになるだろう。

### 謝辞

資料調査にあたり千葉県睦沢町立歴史民俗資料館学芸員の久野一郎氏の協力を得た。ここに記して感謝します。

\* 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1  
電子メール: mura-jun@eri.u-tokyo.ac.jp